

令和2年度(2020年度)公共事業再評価調査

基準年月日 令和2年8月1日

調査番号	08-21	所管部	建設部	作成責任者 担当係	建設部土木局砂防災害担当課長 松田 哲夫 災害復旧係(内) 29-425											
I 基本事項(基準日時点)																
事業種別	海岸侵食対策費(社会資本整備総合交付金)			地区名	野付崎海岸											
事業費	10,700 百万円	負担割合	国 55% 道 45% 5,885 百万円	市町村名	標津町・別海町											
事業目的・目標	●野付崎海岸は、根室沿岸の中間に位置し、漁業や観光などの地域産業の基盤であり、良好な自然環境に恵まれ、国内最大である特異な砂嘴地形を形成し、多様な生態系や優れた海岸景観を有している。 ●本海岸は、平成18年、21年と波浪による砂浜の侵食が著しく、近年では平成26年に漁業関連施設や道路の越波・浸水被害が発生している。 ●このような状況から、海岸保全施設の整備により地域住民の安全で安心な生活と豊かな自然環境を確保するものである。 【アウトカム】等 ●海岸保全施設を整備することにより、浸水被害から住宅等約20戸を保全する。			事業概要 本事業では、突堤及び消波堤の整備により、砂浜の安定化を図り、防護・環境・利用のバランスのとれた海岸を保全する。												
	工事費内訳 【計画】 防護延長 L=21,130m 突堤 N=38基 消波堤 L=4,013m 測量設計費 用地費及補償費			(百万円) 変更前	(百万円) 変更後											
			計	10,200	10,700											
総合計画での位置付け	施策名	大規模自然災害対策の推進			総合計画：大項目	生活・安心										
	総合計画：中項目	強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮			総合計画：小項目	大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服										
施策目標	台風や低気圧による高潮、高波などの自然災害から地域住民の生命・財産を守り国土保全を図るため海岸保全施設の整備を推進する。			関連する指標	高波や津波、海岸侵食、老朽化による施設倒壊による被害が予想される被害戸数のうち、浸水被害のある戸数を減少させる。38,310戸(R2)→36,950(R6)											
II 公共事業評価経過 (単位：百万円)																
事業経過	事業採択	建設着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累積事業費(b)	進捗率(b)/(a)					
	事前評価又は当初	H14(2002)	H14(2002)	H30(2018)			4,900	2,205								
	前回評価	H14(2002)	H14(2002)	H27(2015) H42(2030)			10,200	4,590								
	今回評価	H14(2002)	H14(2002)	R2(2020) R14(2032)			10,700	4,815	80	5,187	48%					
変更理由・内容	事業期間の延伸～近年の事業費の平均から残事業の施工期間を精査したことによる。 事業費の増～資材、労務単価の上昇による。															
III 事業着手前の状況																
1.事業採択に至る経過と背景	・平成10年9月 台風5号により浸水被害が発生(浸水家屋10戸、浸水0.1ha) ・平成13年1月 低気圧により海岸決壊 ・昭和22年～平成11年 最大侵食幅78m															
2.事業検討の手续(住民への把握等)	・昭和36年5月 海岸保全区域指定 ・平成3～5年・平成11年・平成16年・平成20年・平成25年 野付崎海岸検討委員会 ・平成15年3月～平成25年3月 エコ・コースト推進協議会															
3.事業効果を及ぼす地域・対象	・防護延長21,130m 防護面積114.2ha 家屋等20戸 防護人口53人 ・野付風連道立自然公園指定区域およびラムサール条約登録湿地 ・特別天然記念物(タンチョウ)、天然記念物(オジロワシ・オオワシ)の生息地および観光資源の保全															
4.関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費(百万円)	事業内容											
IV 事業の実施状況																
1.進捗状況	(1) 事業実績及び今後の計画															
	施工(工種)区分	工事内容	H14～	～	28～	R1	2	3	4	5～	12	13	14	進捗状況	事業費(百万円)	
	突堤	38基	<N=38基>												58%	4,781
	消波堤	4,013m	<L=1,804m>												36%	4,531
	測量設計費	深浅測量など													55%	1,375
	用地費及補償費	用地買収		4件											80%	13
	(2) 進捗状況															
	事業実施にあたり、支障となるものは特にないため、事業期間を変更し実施する。															
	b a: 概ね予定どおり実施している b: 事業計画(期間)等を変更し実施する。 c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている															
	2.事業効果	経済効果の内訳(百万円)			費用の内訳(百万円)			B/C		備考						
項目		R2現在	項目	R2現在	R2現在		○「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)(農林水産省・国土交通省)H16.6(R2.4一部更新)」に基づき算出 ・便益、費用ともにR2年に現在価値化及び50年間の維持管理費の計上により総事業費と異なる。									
侵食防止便益		184	事業費	9,637												
浸水防護便益		5,186	維持管理費	568												
海岸環境保全便益海岸利用便益		6,910														
合計(B)	12,280	合計(C)	10,205	1.20												
前回再評価年度 : 平成27年度(2015年度) 前回再評価時B/C : 1.20 変更理由 :																
3.コスト縮減などの取組	取組の項目	取組内容								縮減額(百万円)						
	発生材の有効利用	他事業により発生した土砂を養浜材として有効利用								302						

V 評価															
1.必要性	●本事業は越波・浸水被害から人命や背後の家屋等を防護するとともに、豊かな自然環境を保全することが目的であり、その事業効果は大きい。今後も、長期的に砂浜の安定化を目指す本事業の必要性に変化はなく、事業を継続して推進する。														
	<table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する</td> <td>b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である</td> </tr> <tr> <td></td> <td>c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある</td> <td></td> </tr> </table>	a	a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する	b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である		c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある									
a	a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する	b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である													
	c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある														
2.事業を推進する上での課題	<p>(1) 環境上の配慮及び課題</p> <p>●施工場所は、野付風連道立自然公園指定区域およびラムサール条約登録湿地となっており、貴重な動植物が生息していることから、営業時期等による施工時期の制約（4～8月）、外来種進入防止のため、現場入場の際の工事車両を洗浄するなど自然環境の保全に配慮している。</p> <p>●施工時期を漁期（サケ定置網漁（9～11月））から外すことで、生産活動に配慮している。</p> <p>※直近の評価以降の状況変化はない。</p>														
	<p>(2) 事業推進に対する住民の動向</p> <p>●海岸背後の家屋等の安全確保及び漁業活動への影響回避のため、地元住民より末施行区間の早期完成に対する要望がある。また、事業実施以降も毎年度海岸保全整備について、地元から道に要望がある。（根室地方総合開発期成会）</p>														
	<p>(3) その他の課題</p> <p>●自然の絶妙なバランスのもと形成された野付半島（砂嘴地形）は、構造物設置による影響を受けやすいため、概ね5年に1度学識経験者からなる野付海岸検討委員会を開催し施工順序、施工場所、施工規模等について検討し大きな海浜変形を起こさないよう毎年モニタリング調査を実施し学識経験者に報告するなどし、慎重に事業を進めている。</p>														
3.事業達成の見込み	●事業期間が長期に及ぶものの、特に事業の支障となる事項は無く、順調に進捗していく見込みである。														
	<table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>b：課題はあるものの達成は可能である</td> </tr> <tr> <td></td> <td>c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される</td> </tr> </table>	a	a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。		b：課題はあるものの達成は可能である		c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される								
a	a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。														
	b：課題はあるものの達成は可能である														
	c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される														
4.処方針	●事業の必要性に変化はなく、地元からも早期完成要望を受けているため、令和14年度の完成を目指し、事業継続する。														
	<table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>a：継続</td> <td>b：終了</td> <td>c：休止</td> <td>d：中止</td> </tr> </table>	a	a：継続	b：終了	c：休止	d：中止									
a	a：継続	b：終了	c：休止	d：中止											
<table border="1"> <tr> <td>事業期間の変更の有無</td> <td>有</td> <td>事業費の変更の有無</td> <td>有</td> <td>事業内容変更の有無</td> <td>目的・規模等に係る変更</td> <td>左記以外の変更</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>無</td> <td>無</td> </tr> </table>		事業期間の変更の有無	有	事業費の変更の有無	有	事業内容変更の有無	目的・規模等に係る変更	左記以外の変更						無	無
事業期間の変更の有無	有	事業費の変更の有無	有	事業内容変更の有無	目的・規模等に係る変更	左記以外の変更									
					無	無									
VI 備考															
1.評価履歴	再評価：平成27年度実施 評価結果：継続（変更なし） B/C=1.20														
	海岸保全に関する事業については「海岸施設などが沿岸流の状況や海岸侵食に影響を与えることなどを考慮し、事業の計画立案実施に当たっては、各海岸管理者や関係行政機関とより連携を図りながら、周辺海岸も含め広域的な視点から検討すること。」とする付帯意見1件を専門委員会からいただいた。														
2.その他の取組み事項	当該海岸では、根室振興局で毎年開催している漁行政現地連絡会議において、漁業協同組合、役場、振興局など関係行政機関と連携を図りながら漂砂状況を注視し事業を実施している。														

補足資料

VII 事業計画変更						(単位：百万円)				
再評価 又は当初	事業着手	建設着手	変更年度	完了予定	経過 年数	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累積事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	H14 (2002)	H14 (2002)		H30 (2018)	事業 費	4,900	2,205			
変更① 1回目		H14 (2002)	H23 (2011)	H30 (2018)		4,900	2,205			
変更② 2回目		H14 (2002)	H27 (2015)	H42 (2030)		10,200	4,590			
変更③ 3回目		H14 (2002)	R2 (2020)	R14 (2032)		10,700	4,815	80	5,187	48%
変更④										
変更⑤										
変更⑥										
変更⑦										
変更⑧										
変更⑨										
変更⑩					18					
変更理由・内容						<p>変更②：事業費の増、事業期間の延伸 平成26年12月の高潮被害及び地盤高の変更に伴う断面変更 野付海岸検討委員会の提言をうけ海岸保全施設の整備計画を追加等</p> <p>変更③：事業費の増～資材及び労務単価の上昇による 事業期間の延伸～近年の事業費の平均から残事業の施工期間を精査したことによる</p>				